2020年11月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第526号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体136円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

地方出版文化功労賞を受賞した明治の青春群像
吉田与志也著『信仰と建築の冒険』について

文・サンライズ出版編集部　岸田幸治

初めて明らかとなった発展の軌跡

優秀な地方出版作品を顕彰する「第33回地方出版文化功労賞」（主催：ブックインとっとり実行委員会）の大賞にあたる「功労賞」を、弊社が昨年５月に出版した『信仰と建築の冒険　ヴォーリズと共鳴者たちの軌跡』が受賞しました。

ウィリアム・メレル・ヴォーリズの名は、神戸女学院大学図書館（重要文化財）など数多くの西洋建築を手がけた建築家としてご存じの方も多いと思います。

また、女性実業家・廣岡浅子の娘の婿養子となった一柳恵三に別邸の設計を依頼されたことが縁で、妹の一柳満喜子と知り合い、結婚。日米関係が悪化するなか、日本に帰化して一柳米来留と改名。日本の敗戦直後には、マッカーサー元帥と近衛文麿の会談実現に仲介役として貢献したとされる波乱の後半生については、小説作品にもなっています。

ヴォーリズは、1880年（明治13）、アメリカのカンザス州に生まれました。1905年（明治38）、キリスト教の伝道を主たる目的に、滋賀県立商業学校（現、近江八幡商業高校）の英語科教師として来日します。

赴任先の八幡町（現、近江八幡市）では、生徒を自宅に招いたバイブルクラス（聖書を使って英語を教える教室）などへの反発から、わずか２年でその職を解かれてしまいます。ところが、彼はその後も同地にとどまり続け、県内各地でバイブルクラスを開催、３か所にYMCA会館を建設。伝道活動の資金を得るために始めた建築設計の仕事にはやがて多くの依頼が舞い込むようになり、軽井沢・東京・大阪に事務所を置くまでになります。商業学校時代の教え子の青年たちを中心とした伝道団「近江ミッション」も60名を超すまでに成長、塗り薬メンソレータムの販売事業にも手を広げます。

吉田与志也著『信仰と建築の冒険　ヴォーリズと共鳴者たちの軌跡』（サンライズ出版／四六判／定価：本体価格2800円＋税／ISBN978-4-88325-660-0

資金力のある宣教団体には属さないエバンジェリスト（平信徒伝道者）にすぎなかったヴォーリズのこうした成功は、当時、アメリカでも驚きとともに広く知られていました。ところが、現在までその初期の活動が詳細に語られたことはなく、日米関係史、日本近代史上の大きな謎の一つだったとさえいえます。

本書は、来日までのアメリカ時代を第１章に置き、２章以降の各章では1905年から1920年まで１年きざみにヴォーリズと彼に共鳴して行動をともにした人々に起こった出来事を、これまで未発表だった日記や書簡、写真などの一次資料も交えて紹介したことで、かつてない成果として高く評価されました。

著者の自宅に大量に残されていた日記や書簡類

著者の吉田与志也さん（滋賀県守山市在住）は、英語科教師時代のW.M.ヴォーリズの教え子の一人で、そのまま生涯のパートナーとなった吉田悦蔵の孫にあたり、ヴォーリズの住宅として最初期のものである「吉田家住宅（滋賀県指定有形文化財・一部国登録有形文化財）」で生まれ育ちました。

吉田さんは、10年ほど前から家の保存を受け継ぎ、保管されていた大量のアルバムや資料に目を通し始めたところ、そこには、これまで知られていなかったエピソード、あるいは断片的に聞かされていた祖父たちのエピソードをつなぐ内容の記述を多数見出します。

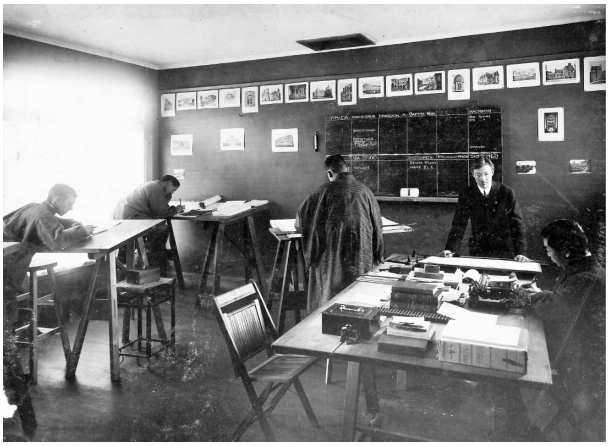
もともと信仰深いタイプではなかった吉田さんは、それまで祖父やヴォーリズの業績とは意識的に距離を置いていたそうです。周囲が同志社大学への進学を望んでいるのは承知のうえで、「反抗心もあって立命館に行ったんで

すよ」と苦笑いしながらおっしゃったこともありました。それでも、目にした資料をこのまま埋もれされる気にはなれず、本書の執筆に取り掛かられました。

吉田さんからあがってきた当初のタイトル案は、最終的にサブタイトルになったものに近かったのですが、私は別案として、「はじめに」の文中にあった「信仰の冒険」という言葉をタイトルにしてはどうかと提案しました。

すると、「『信仰の冒険』という言葉は、牧師の説教のタイトルにもよく用いられるキリスト教ではありふれた言葉です。このタイトルにすると、ネット検索では埋没することになりますよ」（大意）というメールが返ってきて、無知をさらす結果となりました。懲りずに、若さと幾分かの無謀さが感じられる「冒険」という言葉を残したいと提案を重ね、最終的には真ん中に「建築」の語を加えたメインタイトルに落ち着きました。

1912年1月6日の近江ミッション（吉田家蔵）
右端がヴォーリズ、中央が吉田柳子、その右隣が吉田悦蔵、着物姿が清水安三



1912年のヴォーリズ建築事務所（吉田家蔵）

いくつもの幸運と奇跡に支えられた「冒険」

1905年（明治38）から1920年（大正9）にかけて、ヴォーリズが25歳から40歳、吉田悦蔵は15歳から30歳の時期に挑んだ「冒険」は、もちろん順風満帆というわけにはいきませんでした。それは、ヴォーリズ自身が後に書いた自伝を『失敗者の自叙伝』と名づけたことからも明らかです（もっとも彼は、その失敗の連続こそ神の大いなる計画によるものと、解釈したのでした）。

週に一度、大津の膳所中学（現、膳所高校）の生徒相手に開かれていたバイブルクラスでヴォーリズと出会った清水安三は、その後、宣教師として中国に渡り、スラム街の少女たちのための女学校を創設、帰国後は桜美林学園の創立者となった人物です。清水は、ようやく京都三条のYMCA会館の工事監督の職を得たばかりのヴォーリズに会いに行った頃を振り返って書いています。

「八商を追われ」「ついこの間までルンペンして」いた先生は、「ボートを琵琶湖に浮かべてあちこち伝道するだの、大学を建てるだの、病院を建てるだの、口から出まかせを言って居られた」（『湖畔の声』1933年7月号）。はたからは、ホラ吹きにしか見えなかったのでしょう。

ヴォーリズに勝算がなかったわけではありません。建築設計の分野についていえば、事務所設立から間もない時点で、日本の風土（地震が多いことなど）や慣習（下駄を脱ぐ習慣など）を熟知した自分たちが教会や幼稚園、YMCAなどを設計することは、これまで高額にもかかわらず、不十分な設計と不十分な現場監督によって、完成後の維持・修繕費に多大な出費を強いられていたミッション系の団体にとって非常にメリットになる――という意味のことを初期の時点で記しています。

ただし、この頃、建築事務所の庶務と会計の仕事を担当していたのは、吉田悦蔵が神戸の実家から呼び寄せた母・柳子と彼女が連れてきた女中のお春でした。彼女たちは仏壇も持ち込み、当初、毎朝7時からの読経を欠かさなかったといいます。

若者たちの中には、ヴォーリズが課した禁欲的な生活に耐えられなかった者もいました。滋賀県坂田郡鳥居本村（当社が所在する彦根市鳥居本町）生まれで、悦蔵の同級生だった小山吉三郎の場合、語学の才能がずば抜けていたので、ヴォーリズの講話に通訳として同行したり、八幡YMCA会館の事務局を担当するなどしていましたが、ある時、禁を破って酒を飲みはじめ、ついに行方をくらませてしまいました。

かなり大雑把にいえば、こうした時期を何とかしのげたのはアメリカやカナダからの寄付のおかげでした。1907年（明治40）、ヴォーリズは『近江マスタードシード』という月刊の英

1914年末ごろ、近江八幡に登場した西洋建築（吉田家蔵）
左手前から吉田邸、ウォーターハウス邸、ヴォーリズ邸

文機関誌を「近江の伝道に関心を寄せるアメリカ人」に向けて送り始めます。渡米するたびに定期購読者を募り、誌面で活動への寄付をお願いすると、1910年には寄付協力者が400人近くへと膨らみました。1916年には北米の郵送先が1000件を超えました。

それらの寄付に加え、メンソレータム社の創業者であるA・A・ハイド、製糖業で財をなした大富豪の長女で慈善活動家だったメアリー・ツッカーからの大口の寄付も得られました。前者の寄付によって、1914年（大正3）、琵琶湖の伝道船ガリラヤ丸が進水し、後者の寄付によって、1918年、近江八幡に近江サナトリウム（結核療養所。現、ヴォーリズ記念病院）が開院します。ヴォーリズの「口から出まかせ」は現実のものとなったのです。

日米間の関係悪化によって寄付が減少する1930年代後半までに、団体の経済活動だけで、運営が成り立つようにできたことは幸運でした。

わかりやすく今風の言葉を用いれば、若者たちが立ち上げたベンチャー企業が、クラウドファンディングによって資金を調達し、無事に独り立ちしたのです。

当時も西洋文化に好意的だった日本人

最後に、一読者として印象に残った点を記しておきます。

英語教師解雇の件もあって、当時の近江八幡（ひいては滋賀県）は旧弊な田舎という印象を持っていましたが、本書によって覆されました。生徒の3分の2近くがバイブルクラスに入り、複数の者が洗礼を受けるような状況は、都会の学校でも見られなった前代未聞の事態で、京都YMCA名誉主事でYMCAが派遣した英語教師の世話役の立場にあったフェルプスは、行き過ぎた成果に地元から反発が起こるのは当然だとし、ヴォーリズに自重を促す内容の手紙を送っているほどです。

のちの滋賀県内各地での具体的な伝道のようすをみても、キリスト教や西洋文化に対して好意的な人々が多かったことがわかります。

明治初期から彦根では旧彦根藩士族を中心に井伊直弼の名誉回復運動が起こります。尊王攘夷派を弾圧した安政の大獄によって、明治政府に多かった薩長出身者からは忌み嫌われていたからです。1906年（明治39）、彦根城で催された第21回故井伊直弼公誕辰祭には、まだ英語教師の職にあったヴォーリズと宣教師J・H・デフォレストが、アメリカ代表として招かれました（本書には参列者の集合写真も掲載）。

そこで支援を依頼されたデフォレストは、東京で明治政府の高官と面談を行い、アメリカの国際政治雑誌に「1852年に日米戦争を回避させた男――井伊掃部頭直弼」という論文を寄稿したそうです。なかなか、国際感覚に長けたやり方です。その効果がいかばかりであったかは不明ですが、3年後の横浜開港50周年にあたる1909年、横浜に直弼の銅像が建立されました。

ちなみに本書によれば、1916年（大正5）11月、近江ミッション婦人部が地元の少女たちを集めた弥生会で行ったものが、日本で最初のハロウィーンパーティの記録ではないかとのことです。

＊

（きしだこうじ／サンライズ出版編集部）

新刊ダイジェスト

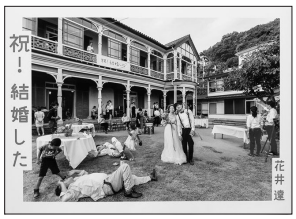
表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

弊社のホームページでは半年前までの本誌バックナンバーをアップしております。また「新刊ダイジェスト」のバックナンバーもたくさん掲載してます。

アドレスは下記の通りです。右記のＱＲコードもご利用ください。

URL：http://neil.chips.jp/chihosho/

『祝！結婚した』●花井達著



結婚式の主役はもちろん新郎新婦なのだけれど、脇役も黙ってはいない。式の前後、移りゆく時間の中では家族やゲスト、よくわからないまま連れて来られた子どもたちも十分主役級の顔を見せてくれる。表紙からして、新郎新婦よりも目を引くのが、酔っ払って芝生に寝転がる男性二人と彼らを見下ろす子どもたち。このグダグダな様子がたまらない。著者は名古屋を中心に全国で結婚式の写真を撮り続けてきたカメラマン。式当日、新郎新婦は細部や背景までは見られない。そこで著者が二人の眼となって、教えてあげたい瞬間を意識して写真に切り取ってみた。アルバムを見ながら新婦の白無垢の着付を見守る父、用意された新聞紙の上の紙吹雪、遺影と共に笑顔いっぱいで撮られた家族写真。また、残念ながら列席が叶わないのか、吸入器をつけた祖母の手を握り、笑顔で語りかける新郎など、病院で撮られた写真も数枚あるのが切ないが、どの写真からも人と人とのつながり、祝福の気持ちが伝わってくる。さらに思わず笑ってしまうのが子どもたちの行動。みんなが式に集中し、前方を見ている中で、一人だけジロリと無表情で振り返っている女の子や、新郎新婦の前にあるケーキのフルーツをつまみ食いしてしまう男の子。名古屋の結婚式当日の伝統行事“菓子まき”を示す写真も興味深い。キャプションがない分、想像力が膨らみ、一枚一枚に描かれるストーリーが笑顔と共に平和な気持ちにしてくれる。（Y）

◆ 2800円・185mm × 257mm・96頁・**赤々舎**・京都・202008刊・ISBN9784865411188

『マンガ万歳 ー画業５０年への軌跡』●矢口高雄 語り・イラスト

人と自然をテーマにしたマンガ作品で著名な矢口高雄氏。秋田の雪深い山里で生まれ育ち今年画業50年を迎えるまでの、波乱万丈の半生記をまとめた。地元紙秋田魁新報での連載を元にしている。

貧しく苦労が多かった幼少時の切ないエピソードが心にしみる。12年勤めた銀行を30歳で辞めマンガ家を目指し上京。デビュー後も順風満帆とはいかない。苦しむ中で作品が読者の支持を得た転換点は、恋しさと疎ましさが相半ばする〝おらが村〟の記憶を自分の強みとすることだった。「幻の怪蛇バチヘビ」「釣りキチ三平」とヒットが連発する。

中学時代、大好きだったマンガを教育の害虫だと教師から罵られた。後年エッセイが学校教科書へ採択された際、交渉して一緒にマンガも載せてもらい悔しさを晴らした。粘り強さと反骨心は故郷の風土が育んだものだろうか。

聞き書き構成だが文章の達人である矢口氏の瑞々しい文体が香る。「（作中キャラクター）ユリッペは実は女房がモデルなんだ。」といったまっすぐな筆致がマンガ同様とても爽やかだ。

三平シリーズの傑作「少年の夏」を巻末に収録。山と川、少年少女の成長、親子の情愛……。矢口ワールドの魅力満載だ。ご本人も好きな短編で読者へのささやかなプレゼントとのこと。巻頭のカラー口絵、未完「雨沼の鱗剥ぎ」の原画は必見。矢口マンガへの愛があふれるあとがきは、横手市増田まんが美術館館長による。所蔵4万枚以上の原画を見に行きたくなる。（堀内正徳）

◆ 1300円・四六判・165頁・**秋田魁新報社**・秋田・202009刊・ISBN9784870204140

『曽おばさんの海』●班忠義著

曽おばさんこと曽秀英、中国残留婦人吉永伸子の壮絶な生涯を、彼女と少年時代から交流をもって日本語を学び、日本に留学して作家、映像監督として活躍する著者が、自らの体験と聞き取りによって描いたドキュメンタリーである。開拓団員として満州に渡った曽おばさんは夫と生き別れ、二歳の男の子との悲惨な逃避の果てに中国人と結婚して生き延びる途を選ぶ。だがそれは新たな過酷の半生の始まりであった。

著者は撫順市に炭鉱夫の子として生れ、14歳の時、文化大革命で下放された姉夫婦が住む、市からバスで1時間、さらに山道を1時間歩いた村で曽おばさんと出会う。彼女は拙いとはいえ中国語を話し、愛児を亡くしながらも中国人夫との間の二女を育て、文化大革命に協力するが異国の目は冷たく、一時帰国した祖国でも心からは歓迎されない。自分の人生を悔い、意気地無なしと呼ぶ。そんな彼女の犠牲精神や人間性をなんとしても伝え、中国人と日本人の新たな友誼に満ちた関係を築きたいと奔走する著者自身の記録でもある。日本では殆ど話題にならない関東軍による住民虐殺「平頂山事件」の様子も、彼女の生きた時代背景として詳しく語られる。全編まさに凄絶なドラマであるが、著者の眼差しは終始穏やかである。

本書は1992年朝日新聞社刊の再刊で、再刊の後書きに、日本への取材は中国政府の言論統制を恐れ、香港経由で往来したとある。昨今の状況が懸念される。（飯澤文夫）

◆ 1800円・Ｂ６判・253頁・**学芸みらい社**・東京・202008刊・ISBN9784909783479

『長野電鉄百年探訪 ー公文書・報道・記憶でたどる地方私鉄の歴史』●今尾恵介著

長野から須坂・中野を経て志賀高原の玄関口である湯田中までを結ぶ長野電鉄は、前身となる河東鉄道が1920年創業ということで、今年でめでたく百周年を迎えました。それを記念して同社のこれまでのあゆみをまとめたのが本書です。

内容は三部構成。第一章は、今尾恵介氏による公文書でみる長野電鉄創成期の歴史。長野電鉄がどういう意図をもって路線を伸ばしてきたかが見えてきます。創業時の路線は屋代～須坂でしたが、当初から千曲川右岸に沿い路線を伸ばすことを企図し、須坂から木島を経て野沢温泉さらには十日町まで視野に入れていたことが伺えます。その遠大な野望がどのように展開していくのかが読みどころです。第二章は信濃毎日新聞の記事で辿る百年。長野市街地の路線は当初から複線で建設し、その後1981年にはいちはやく地下化、自社発注車両も導入など地方私鉄としては先進的な取り組みが目を引きます。最近は木島線・屋代線の廃止など暗い話題が続きましたが、地獄谷野猿公苑のインバウンド需要の増大などもありました。コロナ収束後の観光の復活を期待したいものです。第三章は一般から募集したエッセイ。古くからの利用者の手によるものは往時を伝える貴重な証言です。その一方で小さな子どもからの応募もあり、今も長電ファンがすくすくと育っています。

最初から最後までというか表紙カバー裏までも長野電鉄の歴史が凝縮されていて、長野電鉄を深く知るためには必携の一冊です。（副隊長）

◆1800円・A5判・255頁・**信濃毎日新聞社**・長野・202008刊・ISBN9784784073702

地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

2020年9月1日～30日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

【雑誌】

◆**Radiation Environment and Medicine** Vol.9 No.2 弘前大学出版会編 A4 110頁 1100円 弘前大学出版会［青森］978-4-503-22140-7 20/09

◆**S－style** 10 vol.670 プレスアート編 298mm×232mm 143頁 450円 プレスアート［宮城］978-4-503-22158-2 20/10

◆**GREEN REPORT** 489 2020年9月号 廣瀬 仁編 A4 192頁 2546円 地域環境ネット［埼玉］978-4-909864-21-5 20/09

◆**響き合う街で** No.94 2020年8月号 やどかり出版編 B5 60頁 1200円 やどかり出版［埼玉］978-4-503-22139-1 20/08

◆**かまくら春秋** No.604 2020年8月号 伊藤 玄二郎編 B6 105頁 327円 かまくら春秋社［神奈川］978-4-7740-0809-7 20/08

◆**書21** No.70 澤田 博史編 A4 80頁 2000円 匠出版［神奈川］978-4-925212-79-3 20/08

◆**くらしと教育をつなぐ We** No.228 2020年10／11月号 中村 泰子編 A5 80頁 830円 フェミックス［神奈川］978-4-910420-00-4 20/10

◆**仏事** No.240 2020年9月号 奥村 昇編 A4 86頁 1500円 鎌倉新書［東京］978-4-503-22138-4 20/09

◆**月刊住職** No.262 2020年9月号 矢澤 澄道編 A5 197頁 1364円 興山舎［東京］978-4-908027-84-0 20/09

◆**子どもの文化** No.591 2020年10月号 片岡 輝編 A5 47頁 290円 子どもの文化研究所［東京］978-4-503-22160-5 20/10

◆**茶道の研究** No.778 2020年9月号 三徳庵編 A5 70頁 500円 三徳庵［東京］978-4-503-22141-4 20/09

◆**セセデ** vol.715 2020年10月号 朝鮮青年社編 A4 48頁 482円 朝鮮青年社［東京］978-4-503-22155-1 20/10

◆**東京かわら版** No.566 2020年10月号 佐藤 友美編 204mm×108mm 142頁 545円 東京かわら版［東京］978-4-503-22156-8 20/09

◆**俳句四季** No.518 2020年10月号 西井 洋子編 松尾 正光編 B5 160頁 909円 東京四季出版［東京］978-4-503-22153-7 20/09

◆**みんなの図書館** No.522 2020年10月号 図書館問題研究会編 A5 80頁 750円 図書館問題研究会［東京］978-4-503-22150-6 20/09

◆**パズル通信ニコリ** Vol.172 ニコリ編 247mm×148mm 119頁 1000円 ニコリ［東京］978-4-89072-672-1 20/09

◆**おりがみ** No.543 2020年11月号 日本折紙協会編 A4 51頁 728円 日本折紙協会［東京］978-4-86540-094-6 20/10

◆**海運** No.1116 2020年9月号 日本海運集会所編 A4 72頁 1200円 日本海運集会所［東京］978-4-503-22144-5 20/09

◆**Fuji Airways Gu**

社編　A4　91頁　1200円　岐阜新聞社［岐阜］978-4-87797-289-9　20/08

◆幸せ家族には秘密がある　－49年の家づくりで辿りついた「住育の家」
宇津崎　光代著　A5　198頁　1900円　かもがわ出版［京都］978-4-7803-1112-9　20/09

◆奇跡の水　－「ダイヤの雫」の恵み
夏目　徹著　四六　159頁　1300円　澪標［大阪］978-4-86078-484-3　20/09

◆1年目から成功する不動産投資村田式ロケット戦略のすべて　改訂版
村田　幸紀著　四六　223頁　1500円　YUKAZE［沖縄］978-4-908552-34-2　20/09

【絵本・児童書・学習参考書】

◆おおかみの　はなし　はやかわ　じゅんこ著　B5　33頁　1300円　瑞雲舎［東京］978-4-907613-33-4　20/10

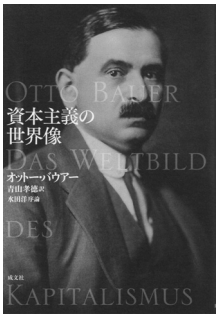
◆もどっておいで　鈴木　永子著　210mm × 180mm　32頁　1200円　リーブル［東京］978-4-947581-99-0　20/10

新刊ダイジェスト ― 拡大版

『資本主義の世界像』●オットー・バウアー著 / 青山孝徳訳

オットー・バウアー（1881～1938）は、オーストリア社会民主党の政治家であり、オーストロ・マルクス主義の代表的な理論家である。第一次大戦で将校として東部戦線に赴き、1914年ロシア軍の捕虜となる。そして、シベリアの捕虜収容所で、資料的制約の下、暇つぶしに本書を執筆したと言われる。ここでロシア革命を体験し、1917年に捕虜交換で帰国した。ハプスブルグ帝国崩壊後オーストリア共和国が樹立されたのち、外務大臣に就任し、オーストリア共和国とドイツ・ワイマール共和国の合邦を目指したという。野党指導者となってからは政権との対決姿勢を貫いた。

バウアー唯一の哲学書である本書を、本人は超越的思想史であると説明する。経済生活や社会的諸関係、国家形態や法といった生存の諸条件が



変われば、時代の只中にある人々の意識はそれに感応し、様々な領域で観念の変容を強いられる。内在的な思想の展開を追うのではなく、そのような時代の申し子としての思想体系を掴まえていくという方法である。

例えば、資本主義の興隆期に、封建制秩序が徐々に崩壊し、社会が、伝統的な共同体の拘束から解放された諸個人の集積となっていく過程で、自然像は大きく変換していく。社会の中の分裂し孤立した諸個人という像は、物質はバラバラの原子の集積であると見る自然像へと投影される。個人は原子であり、原子は個人の写像である。「自然観は、資本主義に似せて世界を創る」。また、伝統的な神学的秩序においては、人は原罪を持って生まれ、ゴルゴダの丘でのキリストの贖罪の死によって救済を得る、とされるが、今や、個人は自分の罪によって罪深いのであり、自分の善行によって神の恩寵を得るのである。こういった、時代を貫いていく個別主義は、資本主義の母国で、イギリス経験論として展開していく。真理は、神学者や先行者の説の中にあるのではなく、自分の観察と経験とそして帰納によってのみ認識することができる。

このバウアーの〈超越的な思想史〉は、唯物史観なる言葉こそ使ってはいないが、古典的なマルクス主義の歴史観そのものではないか、ともとれる。しかし訳者の青山氏はあとがきで、バウアーにおいては経済的土台と観念領域の変容はパラレルな関係にあるとして、そのような見方を避けている。それはそれとして、その辺りの議論に拘泥するよりも、ここでは、時代の社会経済構造の表象としての〈世界像〉が、あらゆる観念領域に投影、転化され、貫徹していく類比と照応の思考宇宙を堪能したほうがいい。（N）

◆1000円・四六判・94頁・**成文社**・神奈川・202009刊・ISBN9784865200522

新規取引出版社の紹介

出版社名、地域、出版ジャンル、電話番号、fax番号、出版社記号の順。

2020年09月11日現在

【新規加入】

1．**岡山大学出版会**（岡山）
書籍　電話086-251-7306
FAX086-251-7314　904228

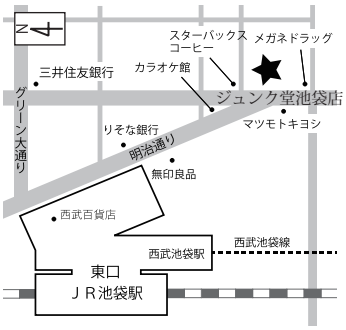
ジュンク堂書店
淳久堂書店

池袋本店
営業時間：月～土 / 午前10時～午後11時
日・祝 / 午前10時～午後10時

池袋であなたのふるさとに帰ってみませんか？

９階「ふるさとの棚」では、
地方・小出版流通センター扱いの
ご当地本を幅広く取り揃え、皆様の
お越しをお待ちしております。

〒171-0022
東京都豊島区南池袋2-15-5
TEL　03-5956-6111
http://www.junkudo.co.jp



売行良好書

期間：2020年9月15日～10月14日
※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

［出荷センター扱い］

(1)『浅田家』2600円・赤々舎　(2)『うたうおばけ』1400円・書肆侃侃房　(3)『ハッピーライフ』1500円・寿郎社　(4)『アルバムのチカラ　増補版』2200円・赤々舎　(5)『韓国の小説家たち１』2200円・クオン　(6)『米寿を過ぎて長い旅』1800円・海風社　(7)『子どもへの詩の花束』1800円・竹林館　(8)『未来ちゃん』2000円・ナナロク社　(9)『蒲生氏郷が攻めた城・築いた城』2300円・サンライズ出版　(10)『不登校は１日３分の働きかけで９９％解決する』800円・リーブル出版　(11)『あれから ― ルワンダ ジェノサイドから生まれて』3500円・赤々舎　(12)『九州・沖縄の巨樹』4000円・花乱社　(13)『海の上の建築革命』2400円・忘羊社　(14)『占領と引揚げの肖像・ＢＥＰＰＵ１９４５－１９５６』2200円・弦書房

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］

(1)『昭和プロレスマガジン　５３』909円・昭和プロレス研究室　(2)『本の雑誌　４４９号』667円・本の雑誌社　(3)『絶景本棚２』2300円・本の雑誌社　(4)『東京かわら版　１０月号』545円・東京かわら版　(5)『東京時層探検』1700円・書肆侃侃房　(6)『第１６回京都検定　問題と解説』1400円・京都新聞出版センター　(7)『殺人七不思議』1650円・行舟文化　(8)『橋川文三　野戦攻城の思想』2400円・弦書房　(9)『Ｌｉｌｉｔｈ』2000円・書肆侃侃房　(10)『奥武蔵登山詳細図全１３０コース』900円・吉備人出版

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］

(1)『蒲生氏郷が攻めた城・築いた城』2300円・サンライズ出版　(2)『出雲王国とヤマト政権』2250円・大元出版　(3)『新訂　ジュニア版　琉球・沖縄史』1500円・編集工房東洋企画　(4)『日本産鳥類の卵と巣』2500円・まつやま書房　(5)『調査されるという迷惑』1000円・みずのわ出版　(6)『光秀の歩き方』2000円・岐阜新聞社　(7)『盛岡高等農林学校と宮澤賢治』700円・杜陵高速印刷出版部　(8)『ハッピーライフ』1500円・寿郎社　(9)『北海道いい旅研究室１７』773円・海豹舎　(10)『島津氏と霧島修験』2000円・鉱脈社　(11)『斗南藩』1800円・東奥日報社

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

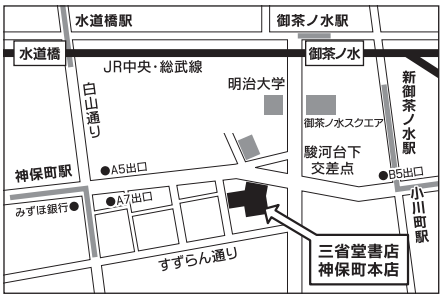
トピックス ―― ★★★

▼現在公開中の映画『浅田家！』が邦画では初となる「ワルシャワ国際映画祭」最優秀アジア映画賞を受賞したとのことです。審査委員による受賞理由が以下の通り公開されています。「現在の混沌とした時代にこそ必要とされる希望に満ちた、非常に感動的で楽しい作品でした。誰もが大きな心を持ち、純粋な夢を決して諦めない、ユニークなある家族の悲しみと喜びの描写が素晴らしく、私たちは最優秀アジア賞を授与いたします」。この映画の原案となった浅田政志写真集【浅田家】（9784903545264）および【アルバムのチカラ増補版】（9784865411003）は在庫あります。共に赤々舎刊。『ワルシャワ国際映画祭』は、1985年からポーランドの首都・ワルシャワで開催される世界15大映画祭のひとつ、とのことです。

▼ある時、雑誌【子どもの文化】2020年10月号の表紙にある『疫病と妖怪』なる特集名が目に入いり、「普通、妖怪といえば夏休み前に組むものだろう…」そう思いつつ中をあらためさせてもらったところ、なるほど、コロナ禍の今年前半、大ブレークした妖怪【アマビエ】に因んだ特集なのでした。本体価格290円の小冊子ながら、これがなんとも面白過ぎる読み物になっていて、妖怪ファンならずとも、いまだ収まらぬコロナ禍の社会を一側面から考察する刺激的な内容となっているのでした。國學院大學准教授・飯倉義之氏の『アマビエはなぜゆるキャラ的にコロナ禍のアイコンとなったのか―予言獣「アマビエ」ブームの観察と考察―』では、アマビエブレークのきっかけから現在まで詳細に考察されています。他に人文地理学者・佐々木高弘氏『妖怪の正体は疫病なの？』、長嶋愛生園歴史館学芸員・木下浩氏『医学史と民俗学の交差するところから、流行り病、疫病を考える』、【子どもの文化】編集委員・堀田穣氏『絵巻物がらみの疫神の話』など、時宜を得た特集となっています。

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない

神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM ～ 8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。